



BEPPU UNIVERSITY Kendo



礼に始まり礼に終わる。引き締まった雰囲気の中、彼女たちは全国大会出場を目指し日々厳しい練習に取り組んでいる。

凛々しくも可憐な 女性剣士達の青春

剣道の歴史は古く、室町時代以降に様々な流派が誕生したといわれている。その後、太平の世、江戸時代が訪れると技のみならず人間形成を目指す『活人剣』として発展を遂げた。ここ、別府大学の剣道場では、勉学と剣道、まさに文武両道に取り組む学生達が日々鍛錬を積んでいる。

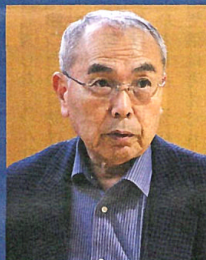
文武両道の精神が築いた 強豪としての地位

別府大学内の一角にある剣道場からは、気合いの籠った声が聞こえてくる。その練習風景は、20歳前後の女性とは思えない迫力があり、間近で見ていると後ずさりさえしてしまうようになるほど。
別府大学の女子剣道部は1980（昭和55）年に誕生し、7年後に強化部に指定された。2006年に九州チャンピオンになるなど、九州の大会では常に上位に入る活躍を見せており、1994年には、第9回西日本女子学生剣道大会で3位という高成績も取っている。その輝かしい実績から、九州各県の強豪高校から腕の立つ女子選手がここに集い、自身の腕を日々

別府大学 女子剣道部



主将の鈴木郁恵さん。夏場は汗をたくさんかくので気になる。と女性らしい一面も覗かせる。



顧問を務める、別府大学短期大学部初等教育科の賀来翼教授。

そんな強豪校の別府大学女子剣道部で主将を務めるのは、3年生の鈴木郁恵さん。宮崎県出身で剣道は小学2年の頃から始めた。個人戦で、中学の時に宮崎県で2位、高校の時に3位とかなりの手練。しかし、ひとつたび面を外すと柔らかな表情が印

夢に向かって邁進する 充実感溢れる学生生活

文武両道。その言葉の大切さを体現させるような指導方針があるようだ。そうした精神面での指導があったからこそ、これまでの実績が残っているのだろう。

「剣道は武道ですから、ただ強ければ良いというわけでもないし、学生の身分たる学業にもしっかりと取り組んでもらいたいと考えています。成績や普段の生活態度が悪いときは個別に指導したり、部員同士でミーティングをさせたりしています。」

指導に当たるのは、20数年顧問を務めている賀来翼先生と外部コーチの笠谷浩一さん。技術的な指導は笠谷さんから学び、賀来先生からは武道に取り組む姿勢などを学んでいるそうだ。

研鑽しているのだ。並々ならぬ気迫を感じたのは無理もなかった。現在の部員数は、4年生が既に引退しており、14人。毎日放課後の2時間を練習時間に充てており、大会が近づくと週7日、毎日練習を行う力の入れようだ。

昨年行なわれた第33回全九州女子学生剣道大会で3位に入賞し、全国大会へ出場した剣道部。その主将を昨年11月に引き継いだ鈴木さん。主将としての目標は「全員で頑張っ、また全国大会へ行くことです」と語ってくれた。若き女性剣士たちの鍛錬の日々はこれからも続く。

学んでいることが、将来だけでなく現在の自分自身にも役立っているという。自炊をする時には栄養面などを考え料理を作るのだとか。また、剣道部のメンバーで集まって一緒にご飯を食べたりして、彼女達なりの青春を送っているという。

象的で、私服でいれば、とても剣士とは思えない。5月まで大会がないので今は、体力づくりの毎日だが、大会前になると授業後は練習一色の日々が続く。そうなるが、バイトや遊ぶ暇もあまりないようだが、鈴木さんはそのことに、あまり不満はないようだ。

「小さな頃から剣道をしてきたので剣道をしない方がおかしいと思っています。」
そんな彼女は、食物栄養科学部で栄養士の勉強をしている。そこには幼い頃から剣道というスポーツに励んできたからこそ夢があった。

「まずは、別府大学で剣道をしたいて思っ学校を選び、そこから学部を選んだという感じですが、スポーツ選手向けの栄養士になりたいと思っ食物栄養科学部に決めました。」